

はじめに

猛威を振るった昨年の新型インフルエンザの発生、一昨年の中国産冷凍ギョーザの残留農薬やメラミン混入食品の事件、毎年のように発生する集団食中毒など、市民生活の安全・安心を揺るがす出来事が頻発しています。

こうしたことから、地方においても、健康危機管理に対する検査、情報管理、迅速・合理的な意思決定の重要性が一層高まってきています。中国産食品の残留農薬、化学物質の混入問題や新型インフルエンザの流行などは、地球規模での食品の流通や人の移動がもたらす負の影響であり、その影響は衛生研究所の業務にまさに直接跳ね返ってきています。その意味では、常日頃からの健康危機管理として、危機に対して早期に対応できることが求められ、そのための検査体制の整備や検査技術の向上、情報管理、迅速・合理的な意思決定体制の整備などに日々努力する必要があると考えています。

このため、当所では、試験検査の技術、精度に関する技術委員会、市民等への情報提供に関する情報委員会を設置し、実効性のある体制作りに努めています。

また、衛生研究所では、河川、大気等の環境や食品、飲用水等の生活日常品等の定例的なモニタリング検査を実施していますが、一方では、今回のような広域的、世界的な規模で発生する予期せぬ事態に、これからもさらに備えていく必要があります。

衛生研究所を取り巻く環境は、人員の削減、予算の減額、ポスト団塊世代の大量退職に伴う技術力の低下など年々厳しい状況となっていますが、今後とも、地方の科学的、技術的な中核機関として、職員一同市民の期待に応えられるよう努力してまいりたいと考えております。

このほど、平成21年度に実施しました業務概要と調査研究の成果を、広島市衛生研究所年報第29号として発行しましたのでお届けします。御高覧のうえ御意見いただければ幸いと存じます。

平成22年9月

広島市衛生研究所長 吉岡 嘉暁

I 沿革

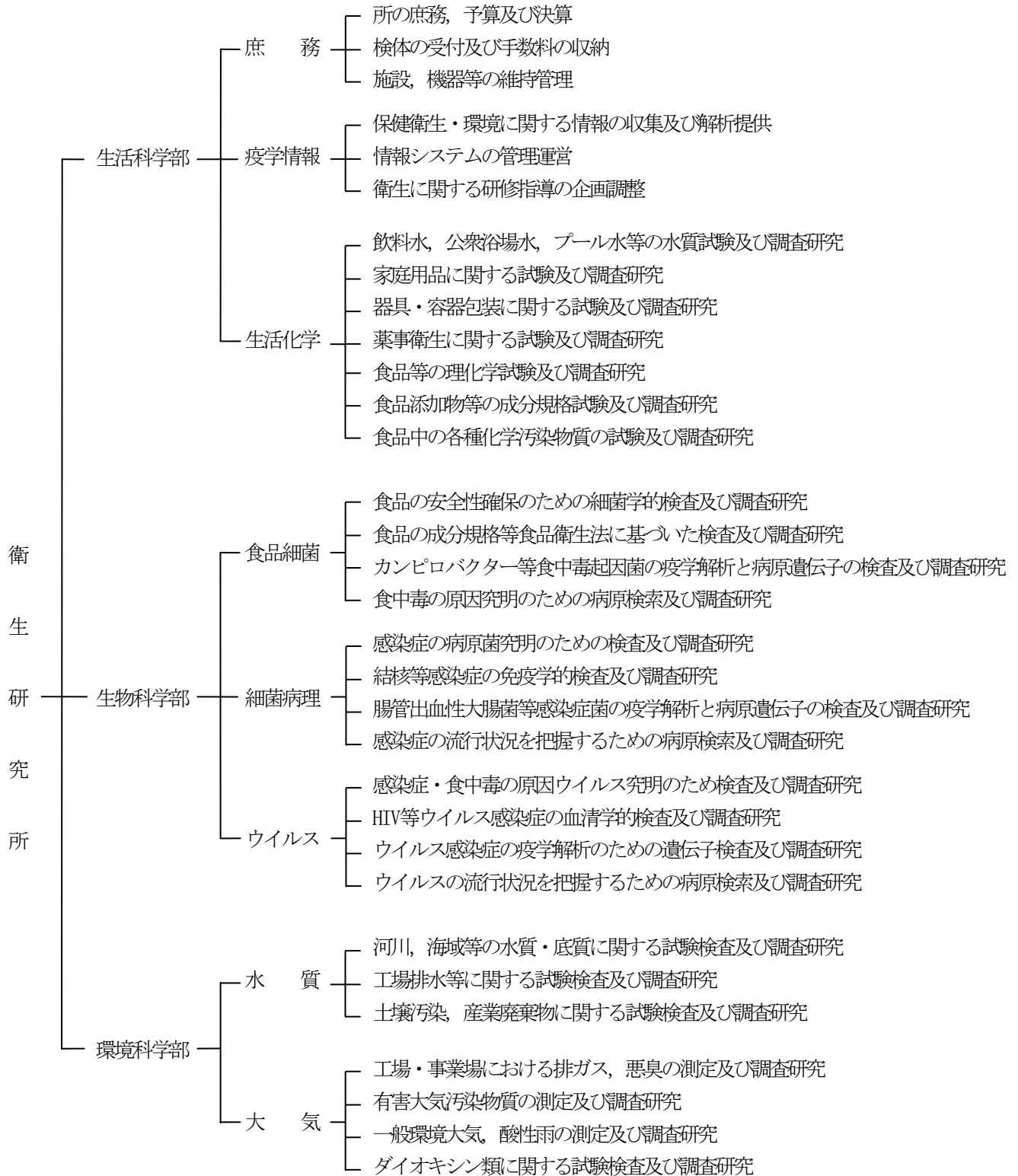
昭和25年7月、当所の前身である衛生試験室が、広島市保健所に設置された。その後、昭和44年4月衛生試験所として独立、昭和46年10月に公害試験所を分離設置し、市民生活の衛生的基盤の確立に努力してきた。

昭和55年政令指定都市昇格を機に、昭和57年4月衛生試験所と公害試験所を統合し衛生研究所を新設した。現在は、庶務・疫学情報・環境衛生・食品化学に関する業務を行う生活科学部、細菌病理・食品細菌・ウイルスに関する業務を行う生物科学部、水質・大気・ダイオキシン類に関する業務を行う環境科学部の3部体制をとり、複雑多様化してきた公衆衛生に係る行政需要に対応している。

年	譜
昭和25年 7月	広島市保健所（昭和28年より東保健所）に衛生試験室を設置。
昭和44年 4月	衛生試験所条例施行により、東保健所の2階の一部に衛生試験所（化学試験係、細菌病理検査係）を設置。
昭和45年 1月	東保健所に増築された3階部分に移転。
昭和46年10月	化学試験係より公害関連業務を分離、環境保全部に公害試験所を新設。
昭和48年 4月	衛生試験所の係制を科制に変更。
昭和50年 7月	衛生試験所に環境科を新設し、化学試験科を食品科に改め、細菌病理科と合わせて3科体制となる。
昭和55年 3月	衛生研究所建設事業計画に基づいて、庁舎の建設に着手。
昭和55年 4月	政令指定都市に昇格。 衛生試験所に食品衛生科を新設し、食品科を食品化学科に、環境科を環境衛生科に改め、細菌病理科と合わせて4科体制となる。 公害試験所は水質科と大気科の2科体制となる。
昭和57年 4月	衛生研究所条例施行により衛生試験所と公害試験所を統合し、西区商工センター四丁目に衛生研究所を設置。 食品環境部、微生物部、公害部の3部体制で発足。
平成 7年 3月	本館内に生物安全実験室(P3：ウイルス)を整備。
平成 9年 4月	食品環境部を生活科学部に、微生物部を生物科学部に、公害部を環境科学部に改める。
平成13年 3月	化学物質安全実験施設を整備。
平成15年 3月	学識経験者等の外部委員による機関評価を実施。
平成20年 6月	本館内に生物安全実験室(P3：細菌)を整備。

Ⅱ 組織機構及び業務内容

1 組織及び業務内容



2 職員配置

(平成22年4月1日現在)

部 門 \ 職 種		事 務 員 吏 員	技 術 吏 員						計
			技 師		医師	薬剂師	獣医師	臨床検査技師	
			化学系	農学系					
健康福祉局理事（事）所長					1				1
生活科学部	部 長		1						1
	(庶 務)	4							4
	(疫学情報)		2						2
	(生活化学)		7	2					9
生物科学部	部 長			1					1
	(食品細菌)		1			1	1	1	4
	(細菌病理)					2	2		4
	(ウイルス)					1	2	1	4
環境科学部	部 長		1						1
	(水 質)		6						6
	(大 気)		4			1		1	6
合 計		4	22	3	1	5	5	3	43

3 職員名簿

(平成22年 4月 1日現在)

理事(事)所長 吉岡 嘉暁

生活科学部

部 長 末田 義博

(庶 務)

主 幹(事)主任 原田 巧

主 査 廣本 喜稔

主 事 稲積 聖二

主 事 下前 こころ

(疫学情報)

専門員 片岡 真喜夫

主任技師 吉貞 奈穂子

(生活化学)

専門員(事)主任 石村 勝之

専門員 橋本 和久

専門員 常政 典貴

専門員 長谷川 富子

主任技師 松木 司

主任技師 佐々木 珠生

主任技師 村上 紀子

技 師 岩本 安未

技 師 森山 友絵

生物科学部

部 長 笠間 良雄

(食品細菌)

専門員(事)主任 伊藤 文明

主任技師 毛利 好江

主任技師 国井 悦子

主任技師 花木 陽子

(細菌病理)

主任技師 京塚 明美

主任技師 宮野 高光

技 師 末永 朱美

技 師 田内 敦子

(ウイルス)

主任技師 阿部 勝彦

主任技師 山本 美和子

技 師 井澤 麻由

技 師 田中 寛子

環境科学部

部 長 堀川 敏勝

(水 質)

専門員(事)主任 細末 次郎

専門員 田村 貴

専門員 松尾 愛子

主任技師 小串 恭子

技 師 伊藤 良子

技 師 森本 章嗣

(大 気)

専門員 國弘 節

主任技師 小中 ゆかり

主任技師 村野 勢津子

主任技師 吉岡 英明

技 師 築地 裕美

技 師 田中 智之

Ⅲ 庁舎及び施設概要

1 建物・施設概要

(1) 建設規模

ア	敷地面積		5,575.56 m ²
イ	建築面積	総建築面積	1,529.96 m ²
		総延床面積	4,915.141m ²

ウ 建物概要

本館	鉄筋コンクリート造	地下1階・地上4階建（一部5階）
	建築面積	1,101.86 m ²
	延床面積	4,487.041m ²

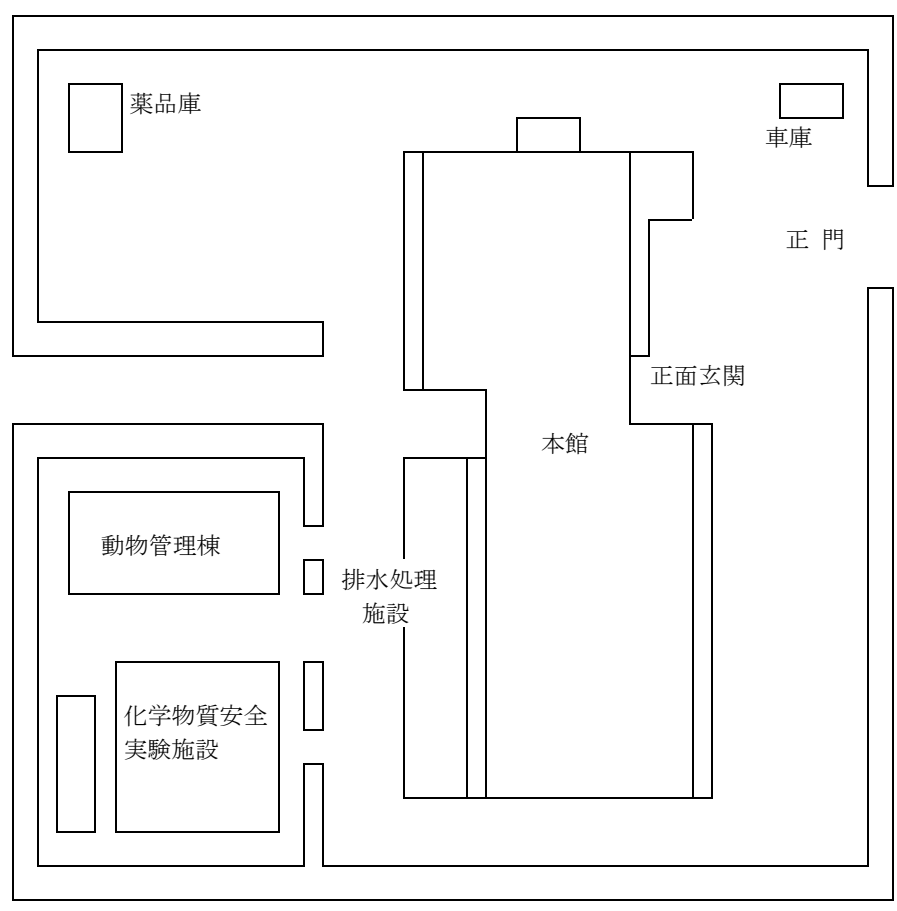
化学物質安全実験施設

	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	204.27m ² （内 倉庫等90.83m ² を含む）
動物管理棟	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	199.83m ²
薬品庫	ブロック造平屋建	床面積	24 m ²

(2) 設備概要

電気設備	非常用発電機	6.6kV	375kVA
排水処理設備	pH調整装置		

2 庁舎配置図



IV 予算概要

1 予算概要

科 目		予 算 額 (当初)	
		平成 2 2 年度	平成 2 1 年度
歳 入		(千円)	(千円)
使用料及び手数料			
手 数 料			
衛生手数料	保 健 衛 生 手 数 料	4,298	4,905
国庫支出金			
国庫負担金			
衛生費国庫負担金	保 健 衛 生 費 負 担 金	456	456
市 債			
市 債			
衛生費	保 健 衛 生 債	404,000	57,100
計		408,754	62,461
歳 出			
衛生費			
保健衛生費			
保健衛生総務費	需 用 費	189	243
	使用料及び賃借料	1,991	1,991
	(小 計)	(2,180)	(2,234)
環境衛生費	旅 費	2,718	3,313
	需用費	50,509	51,577
	役 務 費	611	590
	委託料	65,326	70,744
	使用料及び賃借料	683	1,679
	工事請負費	397,277	9,100
	備品購入費	0	28,000
	負担金、補助及び交付金	351	379
	公 課 費	60	22
	(小 計)	(517,535)	(165,404)
計		519,715	167,638

2 平成 2 1 年度主要整備機器

品 名	型 式	数 量
核酸増幅装置 (リアルタイムPCR解析システム)	アプライドバイオシステムズジャパン製 7500 リアルタイム PCR システム	1
高速液体クロマトグラフ装置	島津製作所製 Prominence	1
核酸・蛋白解析装置	ライフテクノロジーズ社製 3500-230	1
高圧滅菌器	ヒラサワ ZM-Cu-PuG	1

V 会議・研修等

1 会議

年 月 日	会 議 名	開催地	出席者名
21. 4. 23～24	第83回日本感染症学会総会・学術講演会	東京都	田中
5. 14～15	第97回日本食品衛生学会学術講演会	東京都	常政
5. 20～22	第60回全国水道研究発表会	さいたま市	長谷川
6. 4	平成21年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会及び地方衛生研究所全国協議会60周年記念事業	東京都	池田
6. 9～11	第18回環境化学討論会	つくば市	細末
6. 13～14	第50回日本臨床ウイルス学会	高知市	岡田
7. 9～10	衛生微生物技術協議会第30回研究会	堺市	山本(美) 末永
7. 23	平成21年度広島バイオテクノロジー推進協議会通常総会記念講演会	広島市	田中
7. 24～25	第22回におい・かおり環境学会	東京都	築地
8. 4～ 5	第63回地方衛生研究所全国協議会中国四国支部会議・平成21年度全国環境研協議会中国四国支部会議(所長・企画部会・理化学部会・微生物部会・水環境部会・大気環境部会)	米子市	吉岡(嘉) 石村・伊藤 山本(修)・ 國弘・佐々木
8. 4～ 5	平成20年度環境測定分析統一精度管理調査結果説明会・平成21年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議	岡山市	細末・松尾
8. 26～27	中国地区衛生環境研究所長会議・第55回中国地区公衆衛生学会	周南市	笠間
8. 27～28	平成21年度指定都市衛生研究所長会議	札幌市	後藤
9. 14～15	日本防菌防黴学会第36回年次大会	豊中市	花木
9. 14～15	第12回日本水環境学会シンポジウム	東京都	泉
9. 15～18	第18回全国越境大気汚染・酸性雨対策連絡会議及び第50回大気環境学会年会	東京都、 横浜市	吉岡(英)
9. 17～19	第20回廃棄物資源循環学会研究発表会	名古屋市	村野
9. 24～26	日本分析化学会第58年会	札幌市	小中
9. 29	瀬戸内海水環境研会議企画検討会	大阪市	田村
10. 1	平成21年度広域的健康危機管理対応体制整備事業「中国四国ブロック広域連携検討会」	岡山市	吉岡・山本 (美)
10. 8～ 9	日本食品衛生学会第98回学術講演会	函館市	末田
10. 19～21	日本食品微生物学会30周年記念学術総会	東京都	末永
10. 20～23	第60回地方衛生研究所全国協議会総会及び第68回日本公衆衛生学会総会	奈良市	後藤
10. 21～23	第68回日本公衆衛生学会総会	奈良市	松木
10. 25～27	第57回日本ウイルス学会学術集会	東京都	山本(美)
10. 29～30	第36回環境保全・公害防止研究発表会	富山市	細末
11. 12～13	第46回全国衛生化学技術協議会年会	盛岡市	橋本

年 月 日	会 議 名	開催地	出席者名
11. 20	平成21年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会	堺市	林
12. 7～ 8	第12回環境ホルモン学会研究発表会	東京都	吉 貞
22. 1. 21～22	第23回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	和光市	後藤・片岡
1. 29	日本食品衛生学会第 12 回特別シンポジウム	東京都	末田
1. 30～31	第 21 回日本臨床微生物学会総会	東京都	宮野
2. 9	第33回瀬戸内海水環境研会議	大阪市	田村
2. 17～18	平成21年度国立環境研究所環境情報ネットワーク研究会	つくば市	磯野
2. 17～18	第25回全国環境研究所交流シンポジウム	つくば市	山本(修)
2. 25～26	第38回全国環境研協議会総会・平成21年度地方公共団体環境試験研究機関等所長会議	東京都	加納
3. 8	広島県水道水質検査精度管理担当者意見交換会	広島市	長谷川・岩本
3. 15～17	第44回日本水環境学会年会	福岡市	松尾
3. 28～30	日本薬学会第130年会	岡山市	常政

2 研修・講習会

年 月 日	研修・講習会名	研修機関名	参加者
21. 6. 2～ 4	平成21年度食品安全行政講習会	厚生労働省医薬食品局	橋本
6. 24～	機器分析研修	環境省環境調査研修所	岩本
7. 9	QFT-2G検査手技完全習得講座	(財)結核予防会結核研究所	花木
7. 13～14	石綿含有建材の石綿含有率測定に係る講義講習会	(社)日本作業環境測定協会	國弘・築地
8. 7	水道水質検査精度管理に関する研修会	厚生労働省健康局	橋本
8. 21	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省医薬食品局	林
8. 24	新興再興感染症技術研修	国立保健医療課学院	阿部
10. 5～ 9	平成21年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	(財)日本環境衛生センター	小串
22. 1. 19～20	第11回食品衛生管理技術研修会	広島食品微生物研究会	笠間・国井
1. 28	大気分析研修	環境省環境調査研修所	末永
2. 15～26	アスベスト分析研修(第2回)	環境省環境調査研修所	吉岡(英)
2. 22～26	平成21年度稀少感染症診断技術研修会	厚生労働省健康局	築地
2. 25～26	講習会「アセトアルデヒド・トルエン・総揮発性有機化合物の汚染防止に関する基準・同解説」	日本建築学会環境工学委員会	毛利・田中
3. 26			橋本

3 所内研修

日 程	名 称	内 容	講師・発表者
21 4. 17	基本行政研修	衛生研究所条例 生活科学部の業務 生物科学部の業務 環境科学部の業務（水質） 〃（大気）	吉岡 嘉暁 末田 義博 池田 義文 山本 修 國弘 節
10. 16	学習ノート勉強会(1回目)	食品衛生検査施設における精度管理について（理化学部分） 食品衛生検査施設における精度管理について（細菌学部分）	橋本 和久 笠間 良雄
10. 16	信頼性保証セミナー (1回目)	標準添加法のデータ解析 アルミニウム分析における精度管理上の問題点 ウイルス培養の精度管理—ブラインドテスト— 環境分析における「標準物質」	吉岡 嘉暁 岩本 安未 田中 寛子 村野勢津子
22. 2. 24	信頼性保証セミナー (2回目)	誤差分散とS N比関数 理化学試験におけるデータのまとめ方について 腸管出血性大腸菌O 1 5 7の遺伝子型別法について 環境科学部水質担当における分析法のMQLについて	吉岡 嘉暁 橋本 和久 末永 朱美 田村 貴
3. 16	業績発表会	食品中のカドミウムの規制動向 クロロホルムによるV O C測定用超純水の汚染事例について アレルギー物質検出のための定性P C Rの検討 標準添加法を用いた加工食品中の有機リン系農薬一斉分析法の検討 S P M Eを用いた悪臭物質の迅速スクリーニング法の検討 新型インフルエンザの発生状況 インフルエンザウイルス検査—抗原迅速検出キットとP C R法の比較— 新型インフルエンザA/H1N1pdm分離株のN A遺伝子解析 新型インフルエンザの中和抗体保有状況 高齢者施設におけるロタウイルスによる集団発生事例 広島市内における公共用水域の状況について（グラフで見る水質の変化） 図書室から見えるダイオキシン類について 広島市内における環境試料中ダイオキシン類の調査結果について～底質試料の同族体・異性体組成解析～ H 2 1年度G F T—T B—2 Gによる結核感染指標検査結果と新規キットの紹介 腸管出血性大腸菌0157 : H7の分子疫学的解析法の比較検討 食品からのカンピロバクター標準検査法のプレ・コラボ試験結果 カンピロバクター分離株の血清型別と薬剤耐性状況 カンピロバクター分離株のG B S関連遺伝子の検討 腸管出血性大腸菌迅速検査法に関する基礎的検討	末田 義博 橋本 和久 常政 典貴 佐々木珠生 林 貴寛 田中 寛子 伊藤 文明 山本美和子 阿部 勝彦 井澤 麻由 松尾 愛子 國弘 節 村野勢津子 宮野 高光 末永 朱美 毛利 好江 花木 陽子 国井 悦子 石村 勝之
3. 30	IT発表会	業績発表会の調査研究テーマ	—

4 研修指導

(1) 技術指導

年 月 日	指 導 内 容	受 講 者	人 員	担 当
22. 2. 15～17	MLVA法による分子疫学的解析法	福岡市保健環境研究所 保健科学課職員	1	生物科学部

(2) 講師派遣

年 月 日	講演会等の名称及び内容	依 頼 機 関	講 師 名
21. 8. 23	新型インフルエンザについて	広島県獣医学会	阿部 勝彦
21. 9. 1	新型インフルエンザ最新情報 拡散を防ぐための対策	社団法人広島消費者協会	伊藤 文明
21. 10. 23	新型インフルエンザについて	財団法人広島市ひと・まち ネットワーク宇品公民館	伊藤 文明

5 施設見学等

(1) 先進地視察

年 月 日	目 的	視 察 先	参 加 者
21. 12. 3～ 12. 4	食中毒菌のリアルタイムPCR法による網 羅的検出法の習得	松江市	石村・田中

(2) 施設見学

年 月 日	見 学 者	人 員
21. 11. 2	インドネシア・エアランガ大学薬学部長他及び広島大学 薬学部関係者	8 名
22. 2. 18	学校法人古沢学園広島製菓専門学校 製菓衛生師科学生	24 名
22. 3. 3	広島酔心調理製菓専門学校 専門課程調理師科 1 年生	105 名